

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800030		
法人名	堀建設 株式会社		
事業所名	グループホーム悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	令和6年1月8日	評価結果市町村受理日	令和6年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和6年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスの影響で面会制限等もありましたが、現在は緩和され入居者様とご家族様の交流が出来る様支援させて頂いています。遠方のご家族様には、写真付きの便りを送り、離れていても安心して頂ける取り組みを引き続き継続しています。入所者様の入れ替わりもあり、新しく入られた方が馴染みやすい様、職員同士連携を取りながらその人らしい生活が送れる様努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から地域密着型事業所として地域行事に参加したり、近隣の人との関わりを大切に、地域の中で利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるように取り組んでいる。開花に合わせて地域の名所にドライブに出掛けたり、毎月、花火大会やホテル観賞など四季折々の行事を企画し五感で感じられるように取り組んでいる。職員間のコミュニケーションが良く、支援方法など職員間で話し合い、関わり方を検討し利用者を敬い、尊重し趣味や好きなことなど継続してできるように対応をしている。代表は毎月のスタッフ研修に参加し意見や要望など直接聞き、話し合いながらより良い事業所作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を復唱し、理念を意識した行動や気づきがある様啓発している。	スタッフ研修やケアの方法に困った時に理念を振り返り、その人らしく過ごせるように実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭の作品提出など、地域と関わる機会を大事にしている。	コロナの感染状況を見ながら地域行事に参加している。地区の文化祭に今年は小さな折り鶴を沢山作り一羽の大きな鶴を作成し出展した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こちらから出向いて行く事は難しかったが、運営推進会議を通して、相談などの対応はさせて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から会議が再開し、直接ご意見・相談が頂け、その場で話し合う事によりスピーディーに取り組みに活用する事が出来ている。	利用者の状況や事業所の取り組みを伝え参加者からの介護に関するアドバイスを参考に改善につなげている。玄関前に運営推進会議報告書のファイルを設置し家族に開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で情報を交換し助言を頂いている。 介護認定更新の調査時には、ご本人の日頃の様子など詳しく伝えている。	運営推進会議で実情を伝えている。市主催のオンライン研修に参加したり日頃から疑問なことがあれば相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束廃止検討会を実施し、その内容をスタッフ研修で報告し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ研修内で周知徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日々スピーチロックにならないような言葉がけに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ研修で虐待防止について研修を行っている。外部の研修などでもできる範囲参加する様にしている。毎日接遇の反省も行き、ケアの振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や定期的な研修等を行うことや、職員会のコミュニケーションの中で利用者様、その家族様の状況等で必要性等を議論しながら学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談を行い、質問があれば対応している。契約時には内容の説明を行なっているが、コロナ渦の影響もあり電話対応できちんと説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じて質問やご意見、ご要望等は書面や口頭で職員に周知し、改善・見直しにつなげている。	面会時や写真付きの便りで利用者の暮らしの様子を伝え意見や要望を聞くようにしている。コロナがら類に移行し、人数や時間、健康チェックなど制限はあるが家族との面会ができるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ研修の中で、代表者・管理者・職員それぞれの意見提案の場を設け反映に努めている。	代表や管理者は毎月のスタッフ研修で職員からの意見など話し合いの場を設け反映している。ペランダの一部が老朽化していたことから新築し利用者の昼食会の場に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況等、その都度調整しながら無理のない様に、職場環境の条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等あれば掲示を行い、研修を受けられる様に行い資格取得への配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設のグループホーム職員との交流や研修はコロナウイルスにより中止となっている。日原の事務所とは管理職研修で意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い要望等をお聞きしている。 入居後はコミュニケーションを取りながら、安心して過ごせる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家での様子や、ご家族の要望をお聞きし、安心して頂ける様よりいい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に緊急時の対応等についての要望を確認している。入居後もその都度連絡をし、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事は継続して出来る様、その都度、支援方法をケアマネ・職員等で協議している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子を写真や手紙で送り、良い関係が継続していけるよう努めている。 ご家族様に出来る支援はその都度お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で中止していたが、近所の方の面会などを再開し、関係作りの支援をしている。	感染状況をみながら人数制限や感染対策をして近所の人との面会を再開し関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席を変え、新しく入居された方が早く安心して馴染める様支援している。 2人で出来る作業は入居者同士、協力して行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方のは、その後の様子を伺い必要な時は相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い出や希望に関心を持ちケアプランをして検討している。 困難な場合、ご家族にご意見を確認しながら支援を行っている。	利用者に寄り添い、思いを把握している。意思疎通が困難な利用者には言動に着目し、表情をみながら対応することで笑顔が増え、落ち着く様子が見えてきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴や暮らし方、環境等の情報収集を行っている。入所時には家族・本人から詳しく聞いて施設内の生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状態を把握し記録をして残している。毎日の朝礼や月に1度のスタッフ研修時に職員で情報交換を行い、適切な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月末に介護計画やモニタリングを行い、本人、家族の希望を確認し、希望に添えるよう職員間で話し合いを持ち、ケアプランを作成している。	介護計画更新時に利用者や家族と話し合い、本人がより良く暮らすために、趣味や好きなことを日常生活に取り入れ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はケアプランに沿ってタブレットに記録している。常時、本人の状況を把握し、課題があればカンファレンスを行いながら介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院、薬の依頼、受け取り、入退院の付添いなど、家族の状況を考慮しながら必要に応じ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナウイルスの為、地域の方との交流は出来なかった。地区の文化祭には作品を出せた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、主治医の往診がある。 ご本人やご家族の希望で、かかりつけ医に受診する方もおられる。他の医療機関はの受診が必要な場合は、主治医やご家族と相談し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時利用者や家族と話し合い、協力医による訪問診療やかかりつけ医による受診など適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変わり事があった場合には、看護師に報告し、指示を仰いでいる。 状況によっては、ご家族やかかりつけ医に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での生活状況の情報を提供し、また入院中の様子については情報を提供して頂き、早期退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、ご家族と重度化した場合や看取りの意向を確認している。 施設で出来る範囲の説明を行ない、ご本人とご家族の意見を尊重して方針を共有している。	入居時に看取りの意向を確認し事業所でできることを説明し方針を共有している。身体状況に応じ主治医や関係者と情報の共有に努め、家族に再確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、全職員がAEDを用いた救命講習を受講している。 急変時には、看護師に相談し対応法など日頃から備えているようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。 日中・夜間想定を行い、どの職員も対応出来るようにしている。	消防署員から避難方法や経路の助言を貰い訓練に役立てている。日頃から消火器の場所や連絡体制、備蓄品の確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇のアンケートを毎月取り、人格を尊重し、プライバシーや誇りを損ねない言葉掛けや対応が来ているか振り返りを行っている。	毎月、職員対象に接遇アンケートを実施している。尊厳を大切に傾聴を心がけている。入浴時や排泄時、羞恥心に配慮した支援に努めたり、女性の利用者からの同性職員の希望にも対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを表現しやすくなるよう、雰囲気作りをし、関わるようにしたり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望も聞きながら、一人ひとりの生活パターンに応じた支援をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台近くにヘアブラシやシェーバー、化粧水などを置き身だしなみが整えられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方にはテーブル拭きや食器洗い、米を研ぐなど職員と一緒にしている。毎日の献立を読んで頂き、その料理の説明も行っている。	季節毎に「〇〇御膳」という名のメニューを提供したり天気の良いときには、気分転換を兼ねて、ベランダで昼食会を開催している。食事が楽しめるように器の工夫などに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に気を付け、食事・水分・間食などタブレットで管理している。咀嚼、嚥下状態に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。夕食後、寝る前には義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを職員間で共有し、トイレの声掛け、誘導を行っている。 パット等必要に応じ使用	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。便器近くに汚物入れのゴミ箱と「汚れパット入れ」と表示し自立に向けた支援につながった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表の確認を行ない、排便の確認ができないご利用者はNSの指示をもらい対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室、脱衣場の温度管理をし、利用者様が無理なく安心して入浴できるよう支援している。 ご本人の体調にも留意している。	浴槽に浸かりたいという思いに安心して入浴ができるように対応している。柚子の時期には、柚子風呂にして楽しんでもらったり、入浴を拒む人には、理由を聞き気持ちに合った対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備に努めており、寝具の洗濯、蒲団干しをし気持ちよく休んでもらっている。 ホール内で休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が綴っており、利用者様の薬の内容、量等職員は知る事が出来る。 変わったことがあればNSに報告し指示を仰ぐ。 利用者の変化等は職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を行い参加して頂き、楽しんで頂いている。 一人ひとりの生活歴を把握して出来る事、したい事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や外気温を確認して、一人ひとり希望があれば戸外に出かけたり、日光浴を楽しんで頂いている。戸外の外出は3密を避けながら出かけている。	利用者から「天気が良いから散歩しに行きたい」の声に戸外に出かけられるように努めている。感染対策をして、ホテル観賞やピクニック、花見など季節を感じ楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者全員、お金の管理はご家族がしている。 ご利用者からの要望があればご家族に承諾を得て所持していただくことはできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってきた時などに、ご家族と話していただいている。 ご家族からいただいた手紙など、ご利用者にわたし管理していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには壁画を入所者さんと毎月一緒に作り飾っている。季節感を味わって頂いている。 玄関には花が飾ってあり、穏やかに暮らせるようにしている。	家族から送られた花を置いたり、毎月作成している壁画や行事の写真を飾っている。ホールでは、気兼ねなく話ができるように席を配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール間では気がねなく話ができるように席を考えている。 日中居室で過ごしたい方には居室で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に入所前の生活歴を聞き室内の家具、テレビ等の配置に気を付けている。 本人が気持ちよく過ごせるようにしている。	テレビや椅子を置いたり、家族写真を飾っている。利用者の希望に合わせて職員と一緒に環境整備をしたり身体状況に合わせて家具の配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に見守りの出来る配置に職員がおり、ケガのリスクを少なくしてる。 洗濯した物は一緒にタンスに収納等している。		